



Title	0くんと絵を描く : 自画像を中心にしたかかわりから
Author(s)	八木沼, みちる
Citation	情緒障害教育研究紀要, 20: 239-244
Issue Date	2001-02
URL	http://s-ir.sap.hokkyodai.ac.jp/dspace/handle/123456789/9426
Rights	本文ファイルはNIIから提供されたものである。

〇くんと絵を描く

－ 自画像を中心にしたかかわりから－

Fun with painting pictures : Self-portrait of an Adolescent with Autistic Spectrum

八木沼 みちる (Michiru Yaginuma) *

週に一度、一時間〇君と絵を楽しむことを通して、計20回のうち10回の自画像を描くことに見る色彩と感情表現から、〇君の絵画的世界を学び、〇君の絵画表現を広げることを目指したかかわりについて報告する。

(キーワード：自画像 色彩 感情)

1. はじめに

〇君は体を動かすこと、音楽、絵を描くことが好きなA養護学校の中学2年生の自閉傾向がある男子である。家や学校での休み時間などを絵を描くなどして過ごしている。お母さんのお話では、好きなことや趣味を持ってから問題行動が減り、自分の時間をもてるようになったという。もともと絵を描くのが好きな〇君にこれまで美術科で学んできた八木沼(以下Yと記す)のもっている知識や表現方法を伝え、〇君の表現(方法)が広がり、余暇の活動がより充実したものになればと考えた。お母さんの「このかわりで絵を描くことがもっともっと楽しいということを知ってほしい」という言葉に答えたいと強く思った。〇君の能力を最大限に生かすためには、〇君に合った画材選びも重要であると考えた。〇君の描き方や家で描いている絵から、アクリル絵の具の方が〇君の表現に合っていると考え、途中から油絵の具とアクリル絵の具の両方を用意した。乾燥が早く次の作業がすぐに行えるためか、〇君はアクリル絵の具を好み、次々と作品を仕上げていった。自画像をモチーフとした理由は〇君は自分の顔が写るものに必ずと言っていいほど、顔を写してにこっと

していた。そこでYは〇君は自分の顔に興味があるということ、自分の顔を描くということのことばの少ない〇君のその時の感情、訴えなどの表現につながるのではないかと考えた。またY自身、自画像に大きな意味があると考え、二人で〇君の顔を描くことにした。場所は、教育大教育棟2階プレイルームである。

2. 〇君との出会い

〇君に最初に出会ったのは、障害児の音楽教室であった。音楽を体で楽しんでいて、表情もいきいきとしていて、ひときわ目立っていた。本当に楽しんでいるというのが伝わってきた。〇君のこれまで描いてきた絵を見せていただいて、なにかとても惹きつけられるものがあった。この子と絵を描いてみたいと強く思った。

3. 〇君が大学に来てからの流れ

1. 専攻科のゼミ室に来る

(制服から私服へ着替える)

2. 飲み物を飲む

3. プレイルームへ移動する

4. 絵を描く

5. ピアノ、ギターを弾く

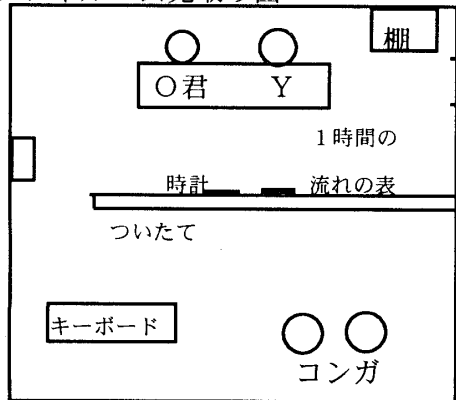
6. 帰る

*北海道教育大学特殊教育特別専攻科

・ 1時間の流れの表

きょうやること 10月13日 1, はじめのあいさつ 2, 自分のかおを描く (4:10~5:10) 3, おわりのあいさつ 4, ピアノ、ギター

・ プレイルーム見取り図



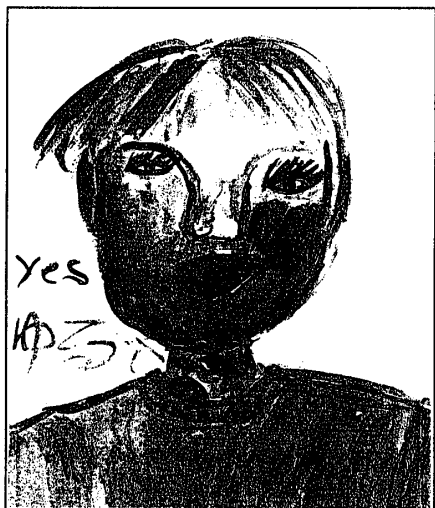
4. 実際のかかわりから

10月13日 (共に絵を描き始めて12回目)

アクリル絵の具に初めて出会う。Yが「油絵の具とアクリル絵の具どっち使いたいですか?」と聞く。(アクリル絵の具、油絵の具が出してあって上に紙が張ってある) O君が「こっち」とアクリル絵の具を指さして言う。この回から、色と英語に興味をもっているとお母さんから聞いていたので、油絵の具とアクリル絵の具の色見本が壁に張ってある。興味をもったようで、O君はそれを見て色の名前を言っている。1時間の流れを書いた表をYが「読んでください」と言う。そしてO君が「絵をかく時間を始めます」と言う。Yが「O君の顔を描く」(表にはOの顔を描くと書いてある)「5時10分までがんばろうね」「終わったらピアノ、ギターね」と言う。O君が「アクアブルー」「イエロー」と言いながら、楽しそうに色を探している。Yが描きはじめるとO君も描き始める。Yが使うのと同じような色を使って描く。O君が席を立ち、コンガをたたくが、いつもすぐに戻ってくるので、Yはなにも言わず描いていた。

少しして再び席について描き始める。Yと同じ色をパレットに出す。Yが細部にとりかかると、O君も細部にとりかかる。Y君が「できました」と言う。Yが「耳とかいいかい?」と聞く。絵の具をさがし、一段階濃い色を使って輪郭、肌を描いていく。首とTシャツを描き始める。O君が「大丈夫」と言う。おそらくYよりもおけている、自分は描いているのが遅いと感じたらしく、自分に大丈夫と言いつけ聞かしている。もしくは、お母さんが迎えに来てくれているかという心配も考えられる。O君が自分の絵を持ち、少し離して見て、Yの方をちらっと見た。はみでたところをふきんでふきとっている。O君が「できました」と言う。Yが「名前をかいて」と言う。O君が絵の具を探し、氏名を書いた。トイレに立つが戻ってきて席に着いたので、新しい紙を渡す。Yが「好きなの描いていいよ」と言う。Yくんが口笛を吹きながら、紙を出していた。O君は席を立ち、キーボードを弾く。Yはつづきの絵を描き始める。O君が鼻歌を歌いながら、赤っぽい絵の具を使って、新しい紙にも顔を描き始める。Yの方はあまり見ない。1枚目よりも楽しんで描いている様子。髪の毛を少し長く描いている。O君が「あらう」と言う。Yが「誰?」と聞く。O君「おん」(女の子と言いたかったのか) Yが「消すの?」と聞くとO君が「けす」と言う。Yが「裏に描けるよ」と言うと、裏に顔を描きはじめた。O君が「おくれてる」「じかん」と言う。(描くのが遅いと思っているのか) Yが「時間いっぱいあるよ」と言う。O君が「できました」と言う。Yが「Oって書いてくれる?」と聞く。O君が氏名を書き「できました」と言う。Yが「挨拶して終わろうか」と言う。O君が「これで絵を描くの勉強を終わります」と言う。

Yが使用したのと同じ色 (茶、黄) で描いている



11月10日 (14回目)

○君に座るようにポンポンと触ると座る。Yが「○君は今日どっちの絵の具を使いたい？」と聞く。○君が「こっち」とアクリル絵の具を触る。○君が鼻歌を歌いながらエプロンをつける。○君が「こっち」と言う。(エプロンのひもをしばるのを手伝ってほしいということ) Yが「新しい紙に描きますか？この前描いたのの続きに描きますか？、白いのに描きますか？」聞くと○君が「はい」と言う。Yが「これに描いてください」と言って新しい紙を渡す。○君は鼻歌を歌いながら、絵の具を一つひとつ見ている。Yが1時間の流れが書いてある表のところに行って、「○君これ読んでください」と言うと言読む。Yが「挨拶お願いします」と言うと○君が「ちがう」と言う。Yが「これから絵を描く時間をはじめます」と言うと、○君が「はじめます」と言ってくれた。Yが「5時12分まで頑張ろうね」と言う。○君は絵の具を一つひとつ見て、これだという色を見つけた様子でひとつだけ、紙の上に置いている。鏡を見ながら、にこっと笑っている。Yが描きはじめたくらいから、○君も描きはじめた。Yが鏡を○君に見やすいようにすると、鏡を見てにこっとした。Yが「○君のかっこいい顔かいてね」と言う。しばらくそれぞれ描いている。Yの描いているのを見て○君が手を休めたので、Yが「おおいねえ、上手だね」と言うと○君はにこっとした。○君が「グレイ」と言う。Yが「うん

グレイね」と言う。○君が「灰色」と言う。口笛や鼻歌がでている。しばらくそれぞれ描いている。○君は筆を使い分けている。Yが「これお母さんに見せようね、こんなに上手なの描いたよって言えるよ」という。口笛を吹く。○君が絵を少し離して見たりする。Yの方は時々見るくらいであまり見ない。○君が色を探しはじめる。バックをピンクでぬった。○君は時々鏡で自分の顔を見てにこにこしながら、自分で色を作って描いている。時々、時計を気にする。紙に、ゆっくり描いていいんだよと書いてみせると○君はそれを読むが、気にとめていない様子。自分の使いたい色を選んでいる。○君が席を立つ。Yが「おー、できた。いいじゃん、いいじゃん」と言う。○君が鼻歌を歌いながら席に着く。お母さんが来てくれる。「モー娘」と書こうとしたので、Yが「その字この紙に書いてください」という。お母さんが絵を「すごくいい、段々上手くなっていくね」と言う。○君が鏡を見て、にこっとする。

黒、灰で顔、Tシャツを描き、バックをピンクで塗っている



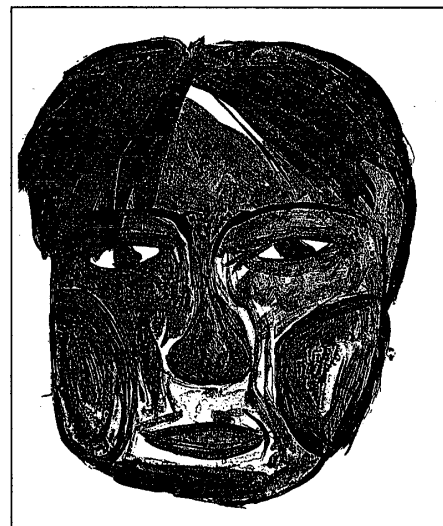
11月24日 (16回目)

制服が汚れないよう、学校から持ち帰った黒いジャージに着替えようと勧めたが、○君がジャージを着たくないと言って、パニックになる。

「作業服を着よう」と言っても、「ジーパンがいい」と言っても着ない。この時間を趣味の時間だと思っているから、ジャージを着たくないのだろうか。このジャージはO君にとってなにかあるのだろうか。お母さんの一言で、徐々に落ち着いていく。お母さんが今日はもう帰りましょうということ、で、「帰りますよ」と言う。O君が「帰りません」と言う。絵は描きたい様子。お母さんが「O、一人で頑張れる?」と聞く。O君は「がんばれる」と言う。Yが「始めるよ」と言ってO君と席に着くが、まだパニックの様子。O君は一生懸命自分の気持ちを落ち着かせようとしているのがわかる。Yが「O君、いつもの質問をします。油絵の具とアクリル絵の具どっちが使いたいですか?」と聞く。O君は泣きそうになるのをこらえながら、「アクリル」と小さな声で言う。キーボードを弾いて気持ちを落ち着かせている。O君が「ゆず、風とともに」と言いながらその曲を弾いている。O君が大きな声で「にっぽん」と言って、パンパンパンと手を叩いた。自分がんばれと言っているようだ。YはO君の椅子の背もたれにジャージの上着が掛けてあるのがジャージの嫌なことを思い出させているのではないかと思い、Yは「ジャージしまうかい?」と聞く。O君は「はい」と言う。泣きながらも紙の包装をはずしている。絵は描きたいらしい。O君はYに向かって、「悲しいから、涙出る」と言ってくる。Yが「だいじょうぶだよ」と言う。O君が「泣かない」と自分に一生懸命言い聞かせている。O君は少し叫んだりするものの、絵の具を選び、Yの方をちらちら見ながら描き始める。深い緑で蛙を描く。さきほどパニックで部屋を出たときに、蛙の格好をして、ジャンプしながら「ゲロゲロ」と言って、Yが後ろからついてくるように何度も後ろを振り返っていた。以前、クレヨンで蛙が泣いている絵を描き、「蛙悲しい、泣いている」と言っていたこともあった。O君にとって悲しい時、蛙がなんらかの形で表れてくることが多い。O君が「ごめんなさい」と言いながら、

Yに蛙が描かれた絵を渡してきた。多少、泣きながらもまた蛙を描き始めた。蛙の顔は笑っている。O君が絵を指差しながら「かえる、ゲロゲロかえる、お家帰る」と言っている。O君はすっかり落ち着いた様子。蛙は笑っていたが、顔を描くと青と黒である。今日の気分を表しているのだろうか。Yの方をちらちら見ながら、「できました」と言う。Yが絵を受け取ると、O君は「星、青い目の、あい」と言う。Yが「まだ描くかい?」と聞くと「まだ描く」と言う。O君に笑顔が見られるようになってきた。笑顔で絵の具を探している。それぞれ黙々と描き続ける。O君「できました、手を洗う」と言ってエプロンはずして部屋を出る。戻ってくるとすぐエプロンを着ける。O君は絵の具を選びながら、鼻歌がでるようになった。Yの方を何度も見る。古川先生が「すごい、上手」と言う。O君少しにこっとする。帰る時はジャージを着て帰った。絵を描く時はこの黒いジャージは着たくなかったのに、帰りは着てもいいというのはどういうことなのか。この何週も黒い絵が続いている。お母さんのお話で、黒い絵が続いているのは、学芸会の緊張とプレッシャー、そしてO君の学芸会の役である、夜の国の大王が黒いイメージだからではないかということがわかった。

黒で輪郭を描き、肌を青で塗っている



深い青緑で描かれている



5. 検討

(1) 絵を楽しむこと

○君は家や学校の休み時間、大学に来てなど多くの時間を絵を描くことで過ごしている。それは好きではないとできないことである。絵を描いているときの○君は、鼻歌や口笛そして笑顔が見られる。これは絵を描くことが楽しいと感じている証拠ではないだろうか。もう一つ重要なことは、○君と共に絵を描いてきて、一番重要である絵を楽しむことが自分にはできていなかったと強く感じた。楽しそうに絵を描く○君を見ていて、絵を描くってこんなに楽しいも

のだったのかと思うようになっていた。いま、Yにとって、この時間はとても貴重なものである。○君にとってもこの時間が楽しいものだということが、○君の行動、言動「あーあ、たのしかった」という言葉や、お母さんのお話からわかる。

・ Yの描くのをよく見て描く時

○君は絵を描く時、Yの描くのを何度もよく見て、筆や色、筆の走らせ方を真似しようとする時と、自分で好きな色、筆を使い自由に楽しんでいる時がある。○君の気分にもよるのかもしれないが、この人のこの絵のように描きたいと思う時と、自分でやりたいことがあり、それを楽しむ時があるのではないかと考える。

・ Yの絵と交換する時

Yの絵をよく見て描く時、見ないで描く時に共通して、Yの絵と交換したいという時と、自分で自由に描く時がある。この人の絵のように描きたい、試みるが思ったように描けない、交換して自分のものにしたいと思うからではないだろうか考える。Yの絵と交換しても、なんらかの形で○君は手を加えている。そして○君の絵として楽しんでいる。

(2) 色彩、形態について

○君とのかかわりの中で、○君が大学に来た時点でその日の気分がわかることがある。もちろんわからなかったり、変わるということもある。○君にとって、その時の感情、気分は絵の表現ととても強く関係している。特に色彩についてはその日、その時だけでなく、その時期の心理的な状態も絵によく表れてくる。黒を主に使った絵が続いた後にハートをピンクで描いたものへ変化するということがあった。1時間に何枚か描いた時に、笑っている絵とどちらかというとき暗い感じの絵を描いたり刻々と変化する感情を表現していることがわかる。形態も色彩もYが描くのを見ていて同じように描く場合と自分の表現が出てくる場合があるが色彩は、○君が自分の表現で楽しんでいることのほうが多い。よくバックをきれいなグラデーションに

することがある。形態についてはYの筆の使い方などをよく見ていることが多い。形態はYの表現を真似したいと思うことが多いようだが、色彩は自分で楽しみたいと思っているようである。O君は何を描くにも、絵の具を一つひとつじっくり選んでいる。ふたを開けて実際の色を確かめたり、色を比べたりする。そしてこの色はないかと聞いてくるときもある。その色が無い場合は、次までに用意した。

(3) 自画像だから見えたもの

自画像を描く前に、くだもの、やさしい、さかな、静物を描いていた。O君の想像力や見え方がわかったが、O君の感情は自画像ほどはっきり見えるものはなかった。O君にとって自画像をいうモチーフは自分というものを投影させやすかったのではないと思う。そしてモチーフを一つにすることでO君の感情の変化がとてもわかりやすい。O君は自画像を描き始めた当初、何も見ていなかったのが、鏡や写真を見ながら描くという変化も見られる。

6. まとめ

このかわりにはO君が絵を描くことがとても好きであることにより続いてきたように思う。O君とかわりについて「絵を教える」ということはどのようなことなのかを考えた。その子の絵を伸ばすためには何が大切なのか。O君とかわりからYはできるだけ、その子の表現を自由にさせること、手を加える、助言はできるだけしないことが大切であると考えた。O君のように絵を描きたいという気持ちがあり、自分の表現をすでにもっている子に対して必要なのは、その子が次にどのような表現をしたいと思っているのかを知り、さりげない形でヒントを示していくことだと考える。そんなことをO君に教えてもらった。O君の感情の表出の場の一部にはなっていたように思う。O君は絵を描くことが気持ちを伝えるという手段になっている。O君がパニックになった時に多くの割合で蛙が関係している。まるで、蛙がO君の気持ち

を代弁しているかのようなようだった。だから言葉よりも説得力がある表現ができるのだろう。絵を描く人々はみんなそんな風に絵を描きたいと思っているはず。YはO君とのかかわりでこんな大切なことに気づくことができた。O君の表現はこれからもどんどん広がっていきだろう。このYとの出会いが、O君の表現を広げることに少しでもつながったならうれしい。これまで多くの絵と一緒に描いてきた。これからは美術館へ行ったり、O君と沢山の絵を観たり、描いていきたい。

謝辞

御指導を頂き、またあたたかく見守って下さった古川先生、毎回大学へ足を運んで頂いたとき、多くのアドバイスを下さったO君のお母さん、絵を描くことの楽しさを教えてくれたO君、本当にありがとうございました。貴重な出会いをありがとう、感謝の気持ちでいっぱいです。

参考文献

- ・西垣籌一著(1996)：『無心の画家たち』日本放送出版協会
- ・ローダ・ケロッグ著(1971)：『児童画の発達過程』黎明書房
- ・金盛浦子著(1995)：『絵で判る子どもの心のバランス』青樹社
- ・香川勇、長谷川望著：『子どもの絵が訴えるものとその意味』黎明書房
- ・小村チエ子著(1995)：『子どもの絵からのメッセージ』朱鷺書房
- ・小村チエ子著(1999)：『子どもの絵心の秘密』朱鷺書房
- ・ヘルガ・エング著、深田尚彦訳(1996)：『子どもの描画心理学』黎明書房
- ・H・ガードナー著、星三和子訳(1996)：『子どもの描画』誠信書房
- ・加藤義信、日下正一著(1995)：『子どもの絵の心理学』名古屋大学出版社